



イワツタの切手

藻類が描かれた切手は、日本では昭和42～46年に発行された「マリモ」(55円)くらいしか今のところ無いらしいのですが、海外ではいろいろな藻類の切手が発行されています。右の切手は1994年6月にフィジーで発行された食用海藻4枚組の1枚で、1995年に滞在中、Nadi空港の郵便局で見つけました。左端に“*Caulerpa racemosa*”, 下端に“*Nama*”と付記されています。“*nama*”はイワツタを指すフィジー語の英語表記です(ちなみに、ミル類は“*sagati*”, オゴノリ類は“*lumiwawa*”, イバラノリ類は“*lumicevata*”)。道端で大きな葉に盛られて売られていて、案の定食べるときはナマでした(ココナツミルクをかける)。(編)



日本藻類学会の入会申込みについて

日本藻類学会に入会を希望される方は、学会ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsp>) の「入会案内」から入会申込書 (Microsoft Word ファイル) をダウンロードし、必要事項を記入の上、電子メールに添付して会員事務担当 (神谷充伸 jsp@wwwsoc.nii.ac.jp) まで送付してください。記入の際は同ホームページにアップしてあります記入例をご参照ください。ホームページをご覧いただけない方は、このページをコピーし、ご記入の上、会員事務担当へ郵送もしくは Fax してください。

該当する会員種別の年会費 (普通会員 8,000 円, 学生会員 5,000 円) は郵便振替でお支払いいただきますようお願いいたします。なお、普通会员に限り、2 年目以降は会費の自動振替がご利用できますので、ご希望の方は会員事務担当までご連絡ください。

入会申込書送付先 〒917-0003 福井県小浜市学園町 1-1
福井県立大学 神谷充伸 宛
Tel & Fax: 0770-52-9606
E-mail: jsp@wwwsoc.nii.ac.jp

会費払込先 郵便振替口座番号: 01640-8-2747
加入者名: 日本藻類学会

-----記入項目-----

● 必須項目

- 申し込み年月日: 年 月 日
- 入会希望年度 (新年度は 1 月から): 年度
- 氏名 (日本語):
- 氏名 (英語):
- 所属機関名 (日本語):
- 所属機関名 (英語):
- 所属住所 (日本語): 〒
- 所属住所 (英語):
- 所属電話:

- 所属 Fax:
- 所属 E-mail:

● 自宅に会誌送付を希望される方は以下の項目をご記入下さい。

- 自宅住所 (日本語): 〒
- 自宅住所 (英語):
- 自宅電話:
- 自宅 Fax:
- 自宅 E-mail:

● 会員種類 該当する項目の□に ✓ をご記入下さい (メールの場合は、該当しない項目を消去)。

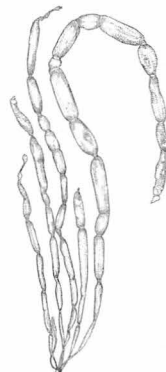
- ☐ 普通会員 (8,000 円)
- ☐ 学生会員 (5,000 円) ※
(指導教官署名)

(E-mail: _____)

※学生会員の場合は、郵便振替用紙の通信欄に指導教官の署名とメールアドレスの記載をお願いします。卒業等で連絡が取れない場合は指導教官に問い合わせる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

● 会誌送り先 ☐ 所属先 ☐ 自宅

◎会誌および名簿に公開を希望しない項目がありましたら、項目先頭の○に「×」をご記入ください。メールの場合は、○を「X」に置き換えてください。数字は半角で入力してください。



自動振替による会費納入のお願い

会員各位

これまででも何度かお知らせしておりますが、金融機関 (銀行、信用金庫または郵便局) 口座からの自動振替による会費納入が可能となりました。会員管理事務の効率化と経費削減につながりますので、ぜひ自動振替による会費納入をご検討いただきますよう宜しくお願い申し上げます。なお、自動振替の促進のため、引き落とし手数料 (税別 155 円) は当面の間は学会の負担とさせていただきます。また、2008 年度会費納入からは、自動振替をご利用の会員全員に領収書を発行させていただいております (送付は 12 月末の引き落とし後)。事務手続き上、外国会員につきましては従来通りクレジットカードによる、また学生会員につきましては郵便振替による振込みのみとさせていただきますので、悪しからずご了承ください。ご不明の点等がありましたら、下記事務局までご連絡いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

庶務幹事 (会員担当) 神谷充伸

【金融機関自動振替をご希望の方 (普通会员・団体会員・賛助会員対象)】 和文誌「藻類」53 巻 2 号に同封しました預金口座振替依頼書に必要事項をお書き込みの上 (銀行、信用金庫の場合は 2 ケ所、郵便局の場合は 1 ケ所忘れず捺印して下さい) 金融機関へご提出下さい。依頼書をお持ちでない方は下記の連絡先までご請求願います。自動振替は 2009 年度分からの適用となりますが、2008 年度およびそれ以前の会費未納分につきましても、下記事務局までご連絡いただければ自動振替による振込みが可能です。 ※ご注意: 残額不足などの理由により、振替指定日にご指定の口座から振替できなかった場合は、後日ご連絡いたしますので、お近くの郵便局で振込みをお願いいたします (振込み手数料をご負担下さい)。

【郵便局での振込みをご希望の方】 お近くの郵便局にて郵便振替票で振込みをお願いいたします。従来通り、振込み手数料をご負担下さい。

振込先: 口座番号 01640-8-2747 加入者名 日本藻類学会
〒917-0003 福井県小浜市学園町 1-1 福井県立大学 神谷充伸 宛
Tel & Fax: 0770-52-9606 E-mail: jsp@wwwsoc.nii.ac.jp

【お申込み・お問い合わせ先】

謝辞

和文誌「藻類」第54-56巻掲載原著論文の審査をしていただきました下記の方々にお礼申し上げます。 和文誌編集委員会

鯨坂哲朗
阿部真比古
今井一郎
内田卓志
大谷修司
大野正夫
笠井文絵

川口栄男
桐原慎二
熊野 茂
倉島 彰
小亀一弘
鈴木秀和
芹澤如比古

田中法生
玉置 仁
寺脇利信
野呂忠秀
羽生田岳昭
濱 健夫
原 慶明

福岡 悟
福代康夫
藤田大介
堀口健雄
吉崎 誠
吉田吾郎
吉田忠生

(五十順, 敬称略)

編集後記 審査員の先生方には大変にお世話になりました。皆さん熱心な上にレスポンスが速く、概ね10日間から4週間の間に審査結果をいただきました。とくに審査用紙を電子化してから格段に速くなり、なかには投稿があった日のうちに審査結果を送ってくださった審査員もおられたほどです。しかしながら、その審査内容は国際誌並に厳しいことが多く(英文誌への投稿を勧めたこともあります)、著者が修正に1年近く要したケースも少なくありませんでした。手際の悪い編集部としては、この3年間の執筆者と審査員の双方のご尽力・ご忍耐に只管感謝するばかりです。

今号、かねてから疑問に思っていた「ズ」と「ヅ」の問題について現状を纏めてみました(決定するには至らず、本号も「クビレズタ」(p. i), 「イワズタ目」(p. 187), 「フサイワズタ」(p. 216), 「フサイワヅタ」(p. 217), 「イワヅタ類」(p. 225), 「イワヅタ」(p. 248)などを統一できませんでしたが)、本誌の句読点が「。」と「,」の組み合わせなのも長らく気になっておりました。どうやら本誌は、昭和25年の「文部省刊行物表記の基準」(文部省1950)の付録「横書きの場合の書き方」もしくは昭和27年に内閣官房長官から依命通知された「公用文作成の要領」(内閣閣内第16号)に従っているらしい。前者には「横書きの場合は「,」を用いず、「。」を用いる。」、後者には「句読点は、横書きでは「,」および「。」を用いる。」と明記されています。いまや文科省もあまり従わないこの規則を本誌は創刊以来かたくなに守り続けているわけで、それならば是非とも今後も「,」「。」を続けていただきたいものと思います。

さらにもうひとつ疑問に感じていたことに奥付の「編集兼発行者」があります(本誌裏表紙の裏を参照)。「発行所 日本藻類学会」となっていますので理屈から考えれば本誌の発行者には会長のお名前が入るのが自然な形に思えます。この点についてさりげなく現会長にお尋ねしたところ「それだけの責任の重さを感じてやってもらいたい」とのこと、とんだ藻場蛇*1でした。いつからこの形になったのか、遡って調べてみたら、あっさり創刊号(第1巻第1号、昭和28年3月)の「編集兼発行者 中村義輝」にたどりつきました。半世紀続いているわけです。この出版体制は戦前からの慣習であったようで、コラムニストとして有名な山本夏彦が、明治から昭和前半にかけての出版事情を紹介した『編集兼発行人』という作品にこんな一節を書いています:「編集人と発行人の二人が訴えられ、牢屋にいられると、当時の新聞は出なくなる恐れがあった。だから、編集兼発行人と称して、一人で二人を兼ねたのである。兼ねれば被害は一人にとどまる。しかも、社内で重要でない人物に兼ねてもらおうと、重要な二人は共にまぬかれる」(山本夏彦『編集兼発行人』中公文庫1980, p. 15)。創刊当時の「藻類」にそうした危機管理が必要だったのかどうかはともかく、有事の折には身を挺してでも会長山田幸男先生をお守りするという思想を編集部がお持ちであったろうことは想像に難くありません。はたしてこの3年間「編集兼発行者」であった自分に(重要でない人物という資格は満たしているものの)そこまでの覚悟があったのだろうかと問われますと(もし問われたら話ですが)返答に窮してしまうだろうこともまた想像に難くなく、しかし、万が一にでも現会長と同じ部屋に入ることには避けたいのでやはり「編集兼発行者」でよかったのかもしれない、いまはなんだか乾燥が済んだばかりの押し葉標本のように清々しい思いで一杯です。 *1) 造語。「藻場をつついて海蛇を出す」の略。

さて、次号から新しい編集部に交代です。粗忽者の現編集長とは打って変わり、安定感著しい次期編集委員長(本誌最終ページをご覧ください)の辣腕に乞うご期待です。この3年を振り返って痛感しますのは、折角素晴らしいチャンスを戴きながらこれを十分に活かせなかった非力さです。「藻類」は歴史ある雑誌であることは勿論、新しい可能性をもった媒体であることも漸く分かってきたのですが、締切に追われるうち任期満了となり残念無念恐縮至極です。今後の課題としたまま引き継ぐことになり新編集部には申し訳ないかぎりです。以下、現編集部での主な変更点を挙げます: 1) 紙質 55巻2号から紙を薄くしました。以前はアート紙76.5kgを使用していましたが、現在はコート紙62.5kgを使っています。これにより紙代だけでなく郵送料も軽減されます。 2) レイアウトソフト 誌面は編集部がDTP方式でつくっていますが、54巻2号からインデザイン(Adobe InDesign CS2 Mac版)を導入しました。そのためWindowsユーザーの方にご不便をおかけすることがあります。 3) 投稿案内 30年以上にわたって「当用漢字・新仮名遣いを用い」ることと書かれていましたが、当用漢字(昭和56年廃止)に「藻」の字は含まれていないので今年から「常用漢字」に変更しました。 4) 白紙ページ・余白の追放 誌面節約のため、白紙・余白をできるだけ減らしました。とりわけ奇数ページ起こしによる偶数頁の白紙の発生を回避するために、毎号記事の順序を工夫しました。また、余白ももたないないので、できるだけ無駄にしないように「遊藻子」というコラム欄を設けました。いわゆる埋め草記事なので、余白が生じるたびに編集部で書き込んだり、本記事の関係者に急遽依頼したりしておりました。 5) カラーページ 当誌ではカラー料金は著者負担で従来4万円としていました。これはほぼ実費です。しかし、誌面は4ページ分を一枚の紙に印刷(あとで4枚に切断)するため、カラーページが1ページしかない号では残り3ページ分を捨てていることになります。とてももたないないので1ページ2万円に設定し、毎号複数のカラー希望者を募るようにしました(ただし、偶数ページと奇数ページがそれぞれ2ページずつでなければならないため毎号パズルを解くようにしてページを配分)。表紙は別に印刷しますが、もともと2色刷になっているので半額の2万円を表紙の著者が負担することでカラー化が可能です。たとえば、大会ロゴが載る1号の表紙のカラー代金は大会実行委員会が負担しています。 6) 電子化 作業の迅速化を実現するために審査用紙、別刷り申込書などの電子版を作成しました。 7) pdf有料配布 55巻からpdfによる別刷り有料配布を始めました。1ページ1,000円です。 8) 扉 日本海藻類の図版をレイアウトしてみました。美しい海藻の写真を提供してくださった菊地則雄(アマノリ属)、川嶋昭二(寒海性コンブ類)、馬場将輔(インゴロモ属)、寺田竜太(オゴノリ属)、小亀一弘(カヤモノリ科)の五博士(敬称略)にお礼を申し上げます。とりわけ、次期編集委員長の寺田博士はレイアウト済みの図版を送って下さり、安心して当誌の編集を引き継ぐことを確信いたしました。最後に、皆様の3年間のご愛読に感謝します。(編)

賛 助 会 員

北海道栽培漁業振興公社 (〒 060-0003 北海道札幌市中央区北 3 条西 7 丁目北海道第二水産ビル 4 階)

阿寒観光汽船株式会社 (〒 085-0467 北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉 1-5)

全国海苔貝類漁業協同組合連合会 (〒 273-0017 千葉県船橋市西浦 3-2-2)

有限会社浜野顕微鏡 (〒 113-0033 東京都文京区本郷 5-25-18)

株式会社ヤクルト本社研究所 (〒 186-8650 東京都国立市谷保 1769)

神協産業株式会社 (〒 742-1502 山口県熊毛郡田布施町波野 962-1)

理研食品株式会社 (〒 985-8540 宮城県多賀城市宮内 2-5-60)

マイクロアルジェコーポレーション株式会社 (〒 500-8148 岐阜県岐阜市曙町 4-15)

(有) 祐千堂葛西 (〒 038-3662 青森県北津軽郡板柳町大字板柳字土井 38-1)

株式会社ナボカルコスメティックス (〒 151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-29-7)

日本製薬株式会社ライフテック部 (〒 598-8558 大阪府泉佐野市住吉町 26)

共和コンクリート工業株式会社 (〒 060-0808 北海道札幌市北区北 8 条西 3 丁目 28 札幌エルプラザ 11 階)

総合科学株式会社 (〒 540-0024 大阪府大阪市中央区南新町 1-4-8)

(株) 環境総合テクノス (〒 541-0052 大阪府大阪市中央区安土町 1-3-5)

(株) 日本港湾コンサルタント (〒 651-0084 兵庫県神戸市中央区磯辺通 3-1-2 第三建大ビル 10 階)

表紙写真の説明

作品名: 「くろぎづた」(語源については本誌 p. 233 を参照)

制作者: 岡村金太郎 (写真)

解 説: 大正 10 年 (1921 年) に発行された日本藻類図譜第 4 巻第 5 号の第 175 図の原図に使われたクロキツタ (藻体の全体図だけを掲載。原図には「2 縁辺の鋸歯」と「3 鋸歯の一つ」も描かれている)。本藻の独特な「鮮緑色」を再現する鮮やかな彩色が施されているが、出版された図譜では、この原図をもとに線画が描かれ、単色 (緑色) で印刷されている。原図は国立科学博物館所蔵。

(編)

Front cover photo: "*Caulerpa scalpelliformis* (R. Brown) C. Agardh var. *denticulata* (Decaisne) Weber-van Bosse" sensu Okamura (= *Caulerpa scalpelliformis* (R. Brown ex Turner) C. Agardh var. *scalpelliformis*). This illustration was drawn by Dr. Kintaro Okamura for Pl. CLXXV in *Icones of Japanese algae* Vol. 4, No. 5 (1921). ©National Museum of Nature and Science, Tokyo.

岡村金太郎 (昭和 5 年 3 月に七里ヶ浜で岡田喜一が撮影した写真。左手に持つ風呂敷にはアラメが入っているとされる「本田・久内植物採集と標本製作法」(昭和 6 年) より転載)。

